
東北大学陸上競技部

OB・OG通信

2022年No.2 (2022.6)

- ・ 第 75 回東北学生陸上競技対抗選手権大会
 - …齋藤(3)が男子 110mH において 14.70(+1.8)の部記録更新
 - …山崎(4)が女子 400mH において 1:02:93 の部記録更新
 - …平谷(1)が女子ハンマー投において 40m66 女子砲丸投において 11m09 の部記録更新
 - …向田(2)が男子 10000m において 31:54:52 で優勝
 - …加地(M2)が男子 400mH において 54.20 で優勝
 - …根本(3)が男子十種競技において 6047 点で優勝
 - …菅田(2)が女子 400m において 56.72 で優勝
 - …原田(2)が女子走高跳において 1m55 で優勝
 - …女子 4×400m R (柄澤(M2)-山崎(4)-原田(2)-菅田(2))が 3:58:42 歴代 2 位の好記録
 - ・ 第 83 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦
兼第 35 回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦
 - …男子総合 1 位(通算 49 勝 30 敗 1 分)、女子総合 2 位 (通算 6 勝 21 敗)
-

- ・ 第 75 回東北学生陸上競技対抗選手権大会 2 ~ 1 7 ページ
- ・ 第 83 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦
兼第 35 回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦 1 8 ~ 2 5 ページ
- ・ 自己ベスト更新者 2 6 ページ
- ・ 三秀会会計幹事交代のお知らせ 2 7 ページ
- ・ 今後の予定 2 7 ページ
- ・ 編集後記 2 7 ページ

深緑の候、会員の皆様にはますますご発展のほどお喜び申し上げます。今号では、東北インカレ、北大戦の結果、ならびにコロナ禍で開催された各大会における選手の活動を報告いたします。

本年も変わらぬご支援を賜りますよう、何卒宜しくお願い申し上げます。

○第75回東北学生陸上競技対抗選手権大会・・・北上陸上競技場[6/3(金)-5(日)]

6/3(金)-5(日)の3日間にわたり北上陸上競技場にて第75回東北学生陸上競技対抗選手権大会が開催されました。東北大学は総合で男子2位、女子3位という素晴らしい結果を収め、主幹開催である七大会に向けてよい弾みをつける形となりました。以下入賞者一覧と、出場者の観戦記となっております。

男子総合	127.5点	2位	女子総合	93点	3位
男子トラック	95点	1位	女子トラック	47点	4位
男子フィールド	22.5点	5位	女子フィールド	46点	3位

入賞者一覧

男子 200m	6位	上村 赳之 (M1)	女子 200m	5位	山崎 萌々子 (4)
男子 400m	2位	斉藤 宥哉 (3)	女子 400m	1位	菅田 理乃 (2)
	3位	佐藤 千仁 (4)		5位	山崎 萌々子 (4)
男子 800m	3位	大塚 光陽 (2)	女子 800m	3位	菅田 理乃 (2)
男子 1500m	4位	谷口 尚大 (M2)	女子 1500m	3位	加藤 ひより (M2)
	5位	村松 兼志 (M2)		7位	阿部 柚香 (4)
男子 5000m	5位	工藤 大介 (4)	女子 5000m	8位	阿部 柚香 (4)
	8位	深澤 昇悟 (2)			
男子 10000m	1位	向田 裕翔 (2)	女子 400mH	5位	山崎 萌々子 (4)
	3位	工藤 大介 (4)		7位	柄澤 菜々美 (M2)
	4位	安本 尚生 (2)			
男子 10000mW	2位	辻本 隆文 (4)	女子 4×100mR	5位	柄澤 (M2)-山崎 (4) -菊池 (1)-伊藤 (3)
男子 110mH	6位	齋藤 晃汰 (3)	女子 4×400mR	3位	柄澤 (M2)-山崎 (4) -原田 (2)-菅田 (2)
	7位	鈴木 健太 (M2)			
	8位	岡田 幹太 (3)			
男子 400mH	1位	加地 拓弥 (M2)	女子 走幅跳	6位	伊藤 未空 (3)
	4位	岡田 幹太 (3)		8位	須藤 桃由 (2)
	5位	二ノ 神遼 (5)			
男子 3000mSC	8位	阿部 圭宏 (4)	女子 三段跳	2位	須藤 桃由 (2)
男子 4×100mR	4位	上村 (M1)-新山 (2) -西尾 (2)-齋藤 (3)	女子 走高跳	1位	原田 萌々子 (2)

男子 4×400mR	5 位	斉藤(3)-佐藤千(4) -片桐(M1)-加地 (M2)	女子砲丸投	4 位 5 位	平谷めるも(1) 畠山千果(4)
男子走幅跳	7 位	細島慎友(4)	女子円盤投	4 位	畠山千果(4)
男子三段跳	6 位 8 位	柏木俊希(3) 藤田想(2)	女子やり投	5 位 7 位	平谷めるも(1) 畠山千果(4)
男子走高跳	4 位 7 位	嶋崎雄飛(3) 平山朝陽(2)	女子ハンマー投	2 位	平谷めるも(1)
男子棒高跳	7 位 8 位	島村惟葵(1) 野田耀司(4)			
男子砲丸投	5 位	大野誠尚(M1)			
男子やり投	7 位 8 位	澤田翔太(3) 能澤圭輔(2)			
男子十種競技	1 位 7 位	根本大輝(3) 米井潤風(M1)			

男子 100m 予選

1-9 3着 八巻隼人(M2) 11.23(-0.6)Q

前傾区間で接地が前に寄りすぎて前半前に進まなかった。中間疾走はうまく体重を乗せられたが3着に入るまでに時間がかかってしまった。

2-6 3着 上村尠之(M1) 11.01(-0.1)Q

スタートで少し出遅れたものの、30m付近からリズムよく加速し、50m地点で4位。ラスト50mで速度をキープして一人追い抜き3着でフィニッシュ。自己ベストを更新する良い走りだった。

4-8 2着 藤井大陸(4) 11.08(-0.1)Q

いつも通りスタートが決まるが、ケガ明けで走り込み不足だったため乗り切れず、先頭に差を付けられ2着でゴール。



八巻(M2)、藤井(4)の準決勝の走り

男子 100m 準決勝

1-9 6着 上村尠之(M1) 10.96(+3.9)

スタートは先頭を切ったものの30m付近から先を越され50m地点で6番目。そのままの順位で変わらず6着でフィニッシュ。

2-7 5着 藤井大陸(4) 11.13(+4.0)

スタートがはまらず加速局面で力み、爆風によってフォームも維持できないまま5着でゴール。

2-9 6着 八巻隼人(M2) 11.19(+4.0)

接地位置は修正できたが今度は膝が前に出ていなかったため、前半かなり出遅れてしまった。後半は風に乗ってだいぶ捲れたが、前には届かず6着に終わってしまった。

男子 200m 予選

2-8 2着 上村尠之(M1) 22.63(+0.1)Q

スタートからカーブを利用してリズムよく加速し、カーブを抜けたところで外側と並んで先頭に立った。残り100mで失速し、外側のレーンに先着を許した。

2-2 2着 西尾陸大(2) 23.29(-0.9)Q

思うような加速が出来ずトップスピードの遅いままフィニッシュ。

4-9 3着 平井嘉人(4) 23.09(+1.8)Q

スタートはまずまずだったが、全くスピードに乗れずに失速。後半抜かれた。

男子 200m 準決勝

1-7 5着 西尾陸大(2) 22.74(+1.7)

体のキレを全く感じられない状況だったが、後半意地で足を回しギリギリ 22 秒台。

2-4 3着 上村尠之(M1) 22.48(+0.7)Q

スタートからカーブを利用してリズムよく加速し、カーブを抜けたところで2位。残り 100m で失速し、外側のレーンに先着を許して3位でフィニッシュ。

2-8 7着 平井嘉人(4) 23.19(+0.7)

スタートで少し焦りが出た。前半 100m も後半 100m もいいとこなし、大学ワーストをたたき出してしまった。

男子 200m 決勝

9 6位 上村尠之(M1) 22.27(+1.6)

勢いよくスタートし、カーブを抜けた時点で5位。残り 100m で失速し、内側のレーンに先着を許して6位でフィニッシュ。



6位入賞上村(M2)の準決勝の走り

男子 400m 予選

2-2 4着 片桐大智(M1) 51.06

前半 200m までスムーズに加速することができたが、後半走りの切り換えをすることができず徐々に減速し5着でゴール。

3-9 2着 佐藤千仁(4) 48.97q

スタートからリラックスしたフォームでバックストレートに入る。インレーンの選手から遅れていることに気づき、200-300 からビルドアップしながらついていき、2着でゴール。

4-7 2着 齊藤宥哉(3) 49.27q

ひとつ外側のレーンにランキング上位選手が出場していたため、前半 200m はそれについていかたちでうまくスピードにのった。ホームストレートにさしかかると一気に辛くなったが、決勝進出のボーダーまでには余裕があったので流して2着でフィニッシュ。

男子 400m 決勝

8 2位 齊藤宥哉(3) 48.78

スタートがしっくり決まり、前半 200m を 22 秒台中盤で通過という理想のレース展開ができた。200-300m のギアチェンジ局面ではピッチを落とさないよう意識し、トップでホームストレートに入った。ラスト直線は垂れながらも肩で地面を押し意識をし、2着でゴール。

9 3位 佐藤千仁(4) 49.17

スタートから無理せず加速し、バックストレートに入る。予選同様インレーンの選手から遅れていたため、後半は追いかける展開に。動きを切り替え、300-400 で数名抜かし3着でゴール。



2位入賞齊藤(2)の予選の走り

男子 800m 予選

1-5 2着 大塚光陽(2) 1:58:49Q

ブレイク直後から4番手で展開。ラスト300m付近から徐々に前に上がっていき2着で着取りで決勝進出を決めた。

2-2 4着 千葉琢巳(4) 1:59:76

200mで良い位置取りをし、そのまま先頭へ。500mまで引っ張りバックストレートで一人に抜かれるも粘る。ラスト100の直線で2人にかわされ巻き返せず4着でフィニッシュ。

3-7 4着 松岡陽太(M1) 2:01:00

120mのブレイクゾーンを越えてから集団がやや横長になり、間に割り込んで3番手に。200~300mでペースが急激に落ち、囲まれる形になったが3番手を維持。550mで周りの動きに合わせてスパートし、そのまま2番手でホームストレートに入ったが、ラスト50mで二人に抜かれ4着でフィニッシュ。自動進出の2着にも、+αの決勝進出枠にも入れず、予選敗退となった。

男子 800m 決勝

5 3位 大塚光陽(2) 1:55:32

200mを5番手で通過。ラスト250m以降3番手につき、3人での争いになったがそのままゴールし悔しい3着となった。



決勝で激しい争いを繰り広げる大塚(2)

男子 1500m タイムレース 決勝

2-6 4位 谷口尚大(M2) 4:05:00

スタート後少し出遅れたものの100m通過あたりで先頭集団につく。その後ペースは徐々に上がる

が1000m直前まで先頭集団についたもののその後先頭から離れてしまった。残り100m地点で3着につけていたがラスト10mで抜かれ4着でゴール。

2-2 5位 村松兼志(M2) 4:07:15

スタート直後に牽制状態となり、150m付近から先頭に出てレースを引っ張る。950m通過まで先頭をキープするが、スパートをかけた選手に対応できずに3番手になる。その後バックストレートで1人、ホームストレートでもう1人に抜かれて5着でフィニッシュ。自分の実力不足を痛感したレースであった。

8 12位 渡辺喬介(3) 4:17:07

終始集団の中盤で走る。1000m付近で先頭と差ができ、その差が埋まらずにそのままゴール。

男子 5000m タイムレース 決勝

2-1 5位 工藤大介(4) 15:18:73

3800mくらいまでは第二集団につけていたが、そこから集団のペースが上がり離された。一人になってからペースが落ちたが、そのまま5位でゴールした。

2-12 8位 深澤昇悟(2) 15:36:97

レース序盤で3位集団から離されてしまったため、落ちてくる人を拾いながら順位を上げていく形となった。3000m過ぎから8位につき、前との差が縮まらずそのままの順位でゴールした。

2-6 20位 坂本順(3) 16:07:65

レースについては正直よく覚えていない。アップの時から背中との痛みとそこから来る差し込みが気になった。背中の痛みはここ最近ずっとあったものの、普段は走れないほどではなかった。この日は脇腹の差し込みもあって(背中と横腹が全体的に痛む感じ)、息を吸うと痛くて最後まで吸いきれない感覚があった。

なんとか伸ばしたりほぐしたりを繰り返したが改善されず、不安を抱えたままスタートラインに立った。案の定走り出してすぐに痛みを感じ、いつも通りの呼吸が出来なかった。

「ただでさえレベルの高い試合なのにこんなじゃ戦えない」

レース中の記憶で唯一残っているのはこれ。痛みや呼吸のしづらさが普段とは段違いだったことは確かだが、気持ちが完全に切れてしまったのは間違いない。

レース後は悔しさというよりも今後どうしようという気持ちが一番強かった。

今はとりあえずジョグを続けながら整体に通うしかないと思っている。

結果も含めてかなり落ち込んでいるが、気持ちが折れないようにしたい。



粘り強い走りの深澤(2)

男子 10000m 決勝

9 1位 向田祐翔(2) 31:54:52

6000m までは予想通りスローペースのレース展開だった。7000m 通過のレースペースの変動に冷静についていき、8800m 通過で勝負を仕掛けた。急速にペースをあげたことで、仙台大の選手を振り切り、そのままゴール。

13 3位 工藤大介(4) 31:57:44

5000m くらいまでは大きな集団の後方で待機。そこから徐々に前方に移動した。8800m からのスパートにも対応したが、ラスト1周で先頭から離され3着でゴールした。

7 4位 安本尚生(2) 32:04:83

まず、アップの段階から雨が強く降っておりコンディションとしてはあまり芳しくありませんでした。そのため、レース序盤からスローペースな展開でした。レースプランとして、6000m までは我慢しようとして決めていたので、スローな展開を崩すことなく淡々と走りましたが、レース後半はかなり仕掛け合いが行われました。結局ラスト

3000m からペースがかなり上がり、そこできつくなりラスト1000mのスパートに反応することができませんでした。若干の足の痛みや差し込みがあったものの、対応できず表彰台を逃し非常に悔しい結果となりました。これからも、練習に励みOBOGの方々に良い結果をお伝えできるよう努力します。サポートありがとうございました。



向田(2)、工藤(4)の表彰台の様子

男子 110mH 予選

1-8 4着 岡田幹太(3) 15.32(-0.5)q

スタートからゴールまで、無難に良いレース。4着でゴール。

1-3 5着 鈴木健大(M2) 15.33(-0.5)q

前半浮いたハードリングになりスピードに乗れず。後半はややキレを取り戻したが、巻き返しは叶わず5着でゴール。

2-8 3着 齋藤晃汰(3) 14.99(-0.1)Q

アプローチをスムーズに入ることができたものの、5台目以降隣のレーンに並べられ力みが生じた。結果、リード脚を度々ぶつけ失速。今シーズン初の14秒台に乗れたことを前向きに捉え、決勝に繋がる。

男子 110mH 決勝

8 6位 齋藤晃汰(3) 14.70(+1.8) [部記録]

予選が良い筋刺激になり、身体が軽く感じた。予選よりも更に鋭くアプローチを決めることができたが、3台目で隣のレーンと腕がぶつかりバランスを崩す。上手く立て直し、リズムを上げようとするが、逆にハードリングが浮いてしまい、追

いつくことができずにゴール。自己ベストを更新したが、悔しいレースとなった。

3 7位 鈴木健太(M2) 14.97(+1.8)

予選から修正を図り、序盤は流れに乗る。3台目以降先頭からは離されたがミスや失速はなく、隣レーンの岡田(3)と競る形に。最後は二人でもつれる形でフィニッシュ。

2 8位 岡田幹太(3) 14.98(+1.8)

“攻め”だけを意識。気がついたら8着でゴール。終始、8番手を走る展開であったが、非常に収穫のあるレースだった。



部記録更新の齋藤(3)予選の走り

男子 400mH 予選

1-5 1着 二ノ神遼(5) 56:96 Q

スタートからキレがなく、ただ淡々とハードルを越えるだけ。200mまではトップ、7台目で歩数の切り替えを失敗して外レーンの選手に抜かれ一度は2番手になるが、10台目を越えてから先頭に出る。1着で決勝に進出。

2-7 2着 岡田幹太(3) 55:45 Q

リラックスして、自分のリズムで落ち着いたレース運び。ラストは、安全に余裕を持って2着でゴール。

3-5 1着 加地拓弥(M2) 54:67 Q

スタートから3台目まで一気に加速して先頭に立つ。バックストレートでも快調に飛ばしていくが、5台目から向かい風が強くなりカーブで大きく減速。それでも歩数を増やし無難なハードリングで9、10台目を越え、後続を離れたまま一着でフィニッシュ。

男子 400mH 決勝

7 1位 加地拓弥(M2) 54.20

予選と同様にスタートから3台目まで強気の攻めで一気に先頭に躍り出るが、バックストレートに入ってから強烈な向かい風に押し戻され、歩数が足りずに5台目でバウンディングのような形になり大きくブレーキしてしまう。直後に内側から抜かされるが歩数を増やして離されずに食らいつき、ホームストレート勝負へ。10台目を越えた時点で先行されるも、ラスト40mで懸命に足を回して追い上げ、ほぼ同着でフィニッシュ。結果は1位。2位と0.03秒差の接戦であった。

4 4位 岡田幹太(3) 54.93

1台目のアプローチで失敗する大失態。なんとか立て直したが、6台目でも大きな減速。ラストは、死ぬ気で走ったが、隣に競り負け、4着でゴール。非常に悔いの残るレースだった。

5 5位 二ノ神遼(5) 56.09

3台目までは好位置につけるも、バックストレートの向かい風で周りの選手以上に失速。200mを5番手で通過、以降は歩数を合わせるだけになってしまい、順位の変動もなくそのまま5着でフィニッシュ。



自己ベスト大幅更新の岡田(3)

男子 3000mSC タイムレース決勝

1-4 8位 阿部圭宏(4) 10:07:47

スタート直後から集団のペースが上がらなかったので1周目終わりから最後まで単独走となった。1000通過は3' 16, 2000で3' 26, 3000で3' 25だった。

2-7 12位 鳥山拓実(2)10:28:39

1000mの通過が3'11"であり、少し早いペースでレースが始まった。1800mまでは他の選手について対応していたものの、それ以降はハードリングもスムーズに出来ず、ペースが落ちてしまった。ラスト1000mはペースの切り替えもできず、組で最下位の結果となってしまった。

1-1 16位 小林由輝(2)10:57:16

スタート後、しばらく集団の最後尾でハードリングに集中した。2人かわし、第2集団内で予定通り3'20ほどで1000mを通過するが、1600mほどで足が止まってしまい、集団から離れてしまう。その後は切り替えることができず、そのままゴールした。

男子10000mW決勝

8 2位 辻本隆文(4)46:11:00

スタートから4000m過ぎまで3位集団でレースを進め、その後一人で集団から抜け出し単独2位になった。7000m付近で先頭の選手に追いついたが、7400m過ぎに3位の選手に追いつかれ3人での先頭集団に。その後他の2選手がペースを上げそこには付けなかったが、ラスト1000mで2位に上がりゴールした。自己ベストを5分弱更新する良いレースだった。



自己ベスト大幅更新の辻本(4)

男子4×100mR予選

1-5 3着 東北大(上村(M1)-新山(2)

-西尾(2)-八巻(M2))41.98Q

1 走上村。朝一番1本目にしてよいパフォーマンスを披露。

2 走新山。スムーズにバトンが渡るも後半大幅に失速。

3 走西尾。大幅減速してバトンを受けとる。

4 走八巻。つまり気味のバトンから伸びやかな走りでフィニッシュ。

男子4×100mR決勝

8 4位 東北大(上村(M1)-新山(2)

-西尾(2)-齋藤(3))41.98

1 走は好調の上村。外レーンの岩手大と距離を詰め2走にバトンパス。

2 走は新山。

3 走は西尾。内側の山形大にかなり詰められる。

4 走は齋藤。外レーンの岩手大に競り勝ち4着でフィニッシュ。

男子4×400mR予選

2-5 1着 東北大(斉藤(3)-佐藤千(4)

-片桐(M1)-佐藤芳(5))3:17:86

1 走の斉藤が前半からスピードにのり、1着でバトンを渡す。2走の佐藤は、途中2着のチームに並ばれるも、最後の直線でかわす。3走の片桐は粘りの走りで先頭争いを続ける。4走の佐藤が、逃げ切りを図る2着のチームについていき、ラストで抜かし1着でゴール。

男子4×400mR決勝

7 5着 東北大(斉藤(3)-佐藤千(4)

-片桐(M1)-加地(M2))3:18:88

1 走の斉藤はスタートから快走を見せ、1着でバトンを渡す。2走の佐藤は、前半をリズムよく走り、ラストで先頭に出る。3走の片桐は、他校の追走に耐え、先頭を守る。3走のラスト10m地点で、横に並んだ2着のチームの左手が接触したことでバトンが落下し、5位でバトンパス。4走の加地が前半からスピードを出して後続を引き離し、そのまま5着でゴール。



斉藤(3)から佐藤(4)へのバトンパス

男子走幅跳

12 7位 細島慎友(4) 6m59 (+2.7)

満足のいく記録をのこすことはできなかったが、7位に入賞することができてよかった。

反省として、試合全体を通して助走距離の調整ができていないと実感した。記録を残せた跳躍では間延びしたり、足が潰れたり満足のいく跳躍をすることができなかった。ただ、ファールになってしまったが、5本目の跳躍が自分的によい跳躍ができていたので収穫はあったかなと思う。今回の試合での反省点や逆にうまくいった部分をもとにこれからの試合に生かしていきたいと思う。

16 9位 古俣諒大(6) 6m47 (-0.2)

一本目 F

スタートの出方を変えたところ、ピッチが上がりきらずスピードもイマイチ。若干ストライドが伸びてファール。

2本目 6m31 (+1.9)

一本目から修正して、出方はそのままに早めにピッチをあげる意識。それ自体は成功したものの、1本目の距離のままだったので板が遠く間延びした跳躍。着地の時に手をつくことで40cm以上の損をしてしまった。これが無ければ入賞は確実のもの出来たはず。

3本目 6m47 (-0.2)

2本目で距離が遠すぎることに気づかず、ほとんど似たような内容に。間延びした跳躍で潰れてしまった。

8 17位 西川亜連(4) 6m22(+1.9)

1本目 F

招集後から1本目までの時間が短く、天候も悪かったため体が冷えてしまいスピードが出なかった。スピードが出ていない分、踏み切りはまとまったものになり当日で一番距離が出た。2cm ファール。

2本目 6m22(+1.9)

体が暖まり、助走スピードを上げることができた。しかし、助走スピードを上げた分、踏み切り前5歩のピッチアップとまとまりが悪くなってしまい、潰れた踏切になってしまった。

3本目 5m92(-0.4)

風が向かい風になったことと、天候が悪くなったため助走を20cm縮めてスタート。助走スピードを上げようと固くなってしまい、ストライドが縮んでしまった。それに従って助走スピードもあまり出ず、踏み切り板を届かずに跳躍した。

男子三段跳決勝

6 6位 柏木俊希(3) 13m76(+1.8)

1本目 13m76(+1.8)

手応えのある一本だった。水平軸が一貫していて一連性があると感じた。ただ動画を見直すとコンパクトにまとまっている感じがあって爆発力は無かったと感じる。

2本目 13m67(+1.9)

ステップで体勢を崩した。衝撃に耐えきれなかったと思われる。

3本目 13m68(+1.4)

ジャンプで浮かなかった。伸びが無かった。ホップからジャンプにかけての一貫性はあったと思う。

4本目 F

集中力が欠け、助走からうまく走れなかった。結果としてステップで崩れてジャンプまで出来なかった。

5本目 13m48(+3.0)

動きは悪くなかったが、一つ一つの動きがコンパクトで伸びがなかった。

6 本目 F

手応え自体はそんなに良く無かったが、動画で見るとこの試技内容が一番良かった。実測 13m80～90 あたり。最後ということもあり、攻めた跳躍で挑んだが F だった。かなり集中出来ていて、その点ではとても良かった。

11 8 位 藤田想(2) 13m56(+2.2)

[12m86(+2.0)]

春先に怪我で出遅れ、技術に不安がある中での試合だった。また、アップや公式練習では上手くいった跳躍が 1 本もなく、調子は今ひとつのように感じていた。

1 本目は、踏切がほぼぴったり合っていたがファールと判定されてしまった。ステップでかなりバランスを崩し、強引な跳躍だったが、着地点は 13m90 あたりで、実測の距離は今回の跳躍の中では最も出ていた。2 本目は助走の途中で脚がつかけてしまい、跳躍せずに終わった。

3 本目は脚の状態に気をつけながら慎重に跳び、力の抜けた跳躍になってしまったがなんとか 13m56 を跳んで、8 位で 4 回目以降に進んだ。4 本目は、助走を元の 13 歩から 9 歩にして跳躍の形を整えようとしたが、潰れてしまい、12m 台だった。5 本目は、11 歩助走で跳んだが、接地の位置が悪く、ブレーキのかかった跳躍になり、記録は 13m28 だった。6 本目は、5 本目同様 11 歩助走にし、動きを改善しながら、かつ少し力を入れる意識で跳んだところ、今日の中では一番まとまった跳躍となったが、満足のいくものではなかった。記録は再び 13m56 だった。

今回の試合を通して、技術不足を改めて痛感した。今後の練習では、これまでと同様に一つ一つの課題と真剣に向き合い、跳躍の動きを改善していけるよう頑張りたい。

12 大木島壮(4) DNS

男子走高跳決勝

5 4 位 嶋崎雄飛(3) 1m95

1m80○ 1m85○ 1m90○ 1m95××○ 2m00×××

1m85 から始めるつもりだったが、公式練習 1m90 を助走が悪く 2 本とも失敗してしまったため念のため 1m80 から始めた。1m90 は少し意識してしまい、助走が崩れバーを揺らしたがなんとか 1 回でクリア。1m95 は 1、2 回目ともに上手く踏み切れ高さは出ていたがクリアランスのタイミングが悪く失敗。3 回目は高さも高くタイミングも完璧だった。2m は 3 回とも助走のスピードを上げたがその分上手く踏み切れず失敗。ただ、踏切位置を遠くするというこれまでの課題はクリアできた。1m95 はギリギリクリアしていたと思ひ込み、2m で意図的に助走スピードを上げかんでしまったが、実際は余裕だったため、もっと落ち着いて跳べば良かった。次からは跳べたときも動画を見に行くようにする。また、試技順で優勝を逃し、勝負弱さが目立ってしまった。

4 7 位 平山朝陽(2) 1m90

冬から行っている助走の改良が間に合わず、後傾と内傾をうまく作れない助走となってしまい、納得のいく跳躍ができなかった。そのなかでも 190 cm まで跳んで勝負ができたことは評価できると思う。

1 能澤圭輔(2) NM

新しい助走が完成し、東北インカレ走高跳の選考会では 3 回の試技内では跳べなかったものの、それなりにいい跳躍ができていたので、以前の大会よりかはいい記録を残すことができそうだという気持ちで挑んだ今大会であったが結果は NM(記録なし)。以下に今回の試合の感想を記載する。助走練習の時点で違和感があったのだが、まず助走の直線部分、動画でみても分かるわけではないのだが、私の中ではとても頑張って走った感があつた。その頑張る感のままに曲線走路にはいることとなった。風が強いせいもあり、スピードをあげなければ、という考えが優先された結果である。今になって思う。自分はまだまだ力がない選手であり、またスピードで跳ぶタイプではないにも関わらず、そんな考えにいたった、自分の力を誤信してしまったのは今後の反省である。またそんな直線助走を行った結果、曲線助走も上手くいくは

ずはなく、力が入ったままの曲線助走を走り、跳躍準備ができず潰れた跳躍になってしまった。嶋崎さんや平山くんが結果を残している姿を目の当たりにして、自分はなんて恥ずかしい選手なのだと痛感した。引退まであとわずかな期間しかないのにこんな様のまま終わるわけにはいかないので、技術、身体感覚に磨きをかけていきたい。

男子棒高跳決勝

3 7位 島村惟葵(1) 4m20

体力を考慮し短助走で臨んだ公式練習では空中動作まで良い形で持っていくことができたが、本番では空中でばらけてしまい記録を伸ばすことができなかった。

1 8位 野田耀司(4) 4m00

3m80、4m00 をクリアしましたがPBとなる4m20に挑戦しクリアできませんでした。

2 赤星栄治(M2) DNS



悪天候の中の跳躍 島村(1)

男子砲丸投決勝

4 5位 大野誠尚(M1) 11m90

1投目は、記録を確実に残すために後ろ重心でゆっくりと投げた(11m44)。2投目は、記録を伸ばすために、特にグライドの速さを上げて投げた(11m90)。3投目以降では、投擲動作時に前重心となるよう心掛けた。一方で、投げ急ぎによる上体の開きが生じ、記録は低下した(11m26-11m70)。

男子やり投げ決勝

5 7位 澤田翔太(3) 47m35

前回の宮城県選でのNMを踏まえ、まずは記録を残そうと意識した。運良くベスト8に残り、4投

目でPBをマーク出来た。長い助走はせずに投げただけでこれだけ飛んだので、もっと練習すれば確実に伸びると思う。

1 8位 能澤圭輔(2) 44m64

風がとても強い日であり、やり投げはある程度の向かい風があればより遠く飛ぶ競技であるが故、ベストを出すにはもってこいの日だ、と考えていた。またこの日のために日頃筋トレに励んでいたこともあり、自己記録を更新する自身があった。しかし結果としては自己記録から大きく下回るものであった。なぜそのようなことが起こったのか。私が分析するに投げるとい動作、イメージと自分の筋肉が連動していなかったためだと思う。様々な選手の動画を拝見し、頭の中でそのイメージを何回も想定してきたが、実際に投げることが少なかった。その結果せつかついた筋肉も上手く連動することがなく、無駄になったと考えられる。これまた澤田さんが自己ベストを出す瞬間を間近でみたことで、正選手であることが恥に思えてきた。高跳びのところでも書いたが、残り短い選手生命を全うするために尽力したい。

4 川内蒼馬(2) DNS

男子十種競技総合順位

1位 根本大輝(3) 6047点

1日目 不得意とする100mと走幅跳で思うように点数が稼ぐことができない。3種目目の砲丸投では10m21cmで種目別トップ。4種目目の走高跳では自己ベストタイの186cmを跳びこちらも種目別トップ。1日目終了時点で3219点、3位で折り返し。

2日目 初めて行う円盤投げでは28m21、また棒高跳びでは自己ベストの3m50、槍投げでは練習投擲で肘を痛めたものの本番では1投目に50m63を投げ全体トップで最終種目へ。1500mでは4:57.87で572点を獲得し総合6047点で優勝。

7位 米井潤風(M1) 5099点

インカレへの調整が中々うまくいかず、1日目は気分が落ち込んだ中スタートした。体が重く、天気も良くなかったので気持ちの面で完全にやられてしまい、走幅跳、走高跳は特に悪い競技をし

てしまった。1日目の時点でPBより300点低い点数となってしまうあまりにひどすぎたので、2日目は気楽に競技しようと思いき、5000点を下回らないことと8位以内には必ず食い込むことだけを考えた。それが功を奏したのか2日目は大きなミスもなく、110mH、円盤投、1500mでPBも出せ円盤投と1500mは2位になるなど希望のある結果となった。自己ベストからは140点下回っていて、納得いく結果ではなかったが競技の流れがどれだけ悪くても切り替えて次に進めば案外悪くない結果につながることを肌で感じた。次の北日本インカレでは目標の5600点をねらいつつ、一つ上の順位の人を超えることに集中して競技したい。

10位 金岡有途(1)4454点

今回は大学に入って初めての試合、そして人生で初めての十種競技だった。高校で部活を引退してからのブランクもあり、最初の100mから結果はボロボロだった。しかし、「NMや棄権なしで最後までやり切ろう」という思いで一所懸命に頑張った。最も不安だった棒高跳びでもなんとか記録を残すことができ、全種目で記録を残すという目標は達成できた。最後までやり切ることができたのは嬉しかったが、記録は散々なものだったので、今後、もっと練習を積み、得点に貢献できる選手になりたい。



2日間で10種目を戦い抜いた3人
左から金岡(1)、根本(3)、米井(M1)

男子十種競技 100m

- 1-4 4着 根本大輝(3) 11.69(-0.2) 713点
- 2-5 6着 米井潤風(M1) 12.09(+0.0) 633点
- 2-3 7着 金岡有途(1) 12.31(+0.0) 591点

男子十種競技走幅跳

- 3 5位 根本大輝(3) 6m31(+0.2) 655点
- 11 9位 金岡有途(1) 5m90(+1.3) 565点
- 9 12位 米井潤風(M1) 5m65(+1.1) 512点

男子十種競技砲丸投

- 4 1位 根本大輝(3) 10m21 498点
- 8 7位 米井潤風(M1) 8m64 404点
- 13 8位 金岡有途(1) 8m64 404点

男子十種競技走高跳

- 5 1位 根本大輝(3) 1m86 679点
- 13 8位 米井潤風(M1) 1m60 464点
- 7 11位 金岡有途(1) 1m60 464点

男子十種競技 400m

- 1-5 4着 根本大輝(3) 53.18 674点
- 2-6 5着 金岡有途(1) 57.42 505点
- 2-9 4着 米井潤風(M1) 53.77 649点

男子十種競技 110mH

- 1-4 5着 金岡有途(1) 17.33(-0.7) 590点
- 2-3 1着 根本大輝(3) 15.87(-0.6) 747点
- 2-6 6着 米井潤風(M1) 17.49(-0.6) 574点

男子十種競技円盤投

- 2 2位 米井潤風(M1) 28m97 444点
- 8 4位 根本大輝(3) 28m21 429点
- 11 13位 金岡有途(1) 21m46 300点

男子十種競技棒高跳

- 6 5位 根本大輝(3) 3m50 428点
- 3 7位 米井潤風(M1) 3m00 327点
- 10 10位 金岡有途(1) 2m70 286点

男子十種競技やり投げ

- 10 1位 根本大輝(3) 50m63 598点
- 7 8位 米井潤風(M1) 41m68 467点
- 1 12位 金岡有途(1) 30m16 301点

男子十種競技 1500m

- 1 5位 根本大輝(3) 4:57:87 572点
- 7 2位 米井潤風(M1) 5:53:93 595点
- 10 8位 金岡有途(1) 5:50:45 448点

女子 100m 予選

2-8 4着 菊池志乃(1)13.23(-0.4)

スタート直後は周りの選手と並んで走っており、30m 付近での加速は、走りのリズムに乗ることができ上手くいった。しかし 60m を過ぎてからスピードを維持することが出来ず、失速してしまった。

女子 200m 予選

2-5 2着 山崎萌々子(4)26:50(+4.5)

5 レーンからスムーズに加速。直線に入り内側の選手を追ってスピードを落とさず2着でフィニッシュ。

1-9 6着 菊池志乃(1)27.71(+0.2)

スタートで大きく出遅れ、焦ってしまい、カーブの加速で力んだため、上手く加速が出来なかった。カーブを抜けてから 150m 付近までは、スピード維持を行うことができたが、ラスト 30m で大きく失速してしまった。



大学初レースの菊池(1)

女子 200m 決勝

6 5着 山崎萌々子(4)26.09(+1.1)

6 レーンからスタート。予選より加速して直線へ。競り合いになるが5番を守りフィニッシュ。

女子 400m 決勝

7 1位 菅田理乃(2)56.72

入りの 200m はリラックスした状態で 1 つ外のレーンを走る選手を追う。ラスト 200m はリズムを保ち、他の選手を引き離して 1 着でゴール。

1 5位 山崎萌々子(4)59.32

悪天候の中 1 レーンからスタート。外側の選手にくらいつき前半をスムーズに通過。終盤に 6 番手から一人かわして 5 着でフィニッシュ。

4 加賀谷美結(1)DNS

女子 800m 決勝

6 3位 菅田理乃(2)2:17:83

入りの 200m で 2 人の選手が前についたため後ろにつく。その後スピードについていけず差が開いてしまい 1 人で走ることに。そのまま 3 着でゴール。

女子 1500m 決勝

7 3位 加藤ひより(M2)4:57:07

スタートから先頭集団の 5 番手の位置でレースを進める。1000m で先頭と離れ、その後 1 人をかわす。ラスト 200m からスパートをかけ、もう 1 人をかわし 3 着でゴール。

11 7位 阿部柚香(4)5:05:95

序盤は真ん中あたりでのスタートとなり良いペースで刻んだ。残り 600m 付近で先頭のペースが上がり離され始めた。残り 400m からはペースが上がらず 1 人に抜かれた。ラスト 200m でスパートをかけ 7 位でのフィニッシュとなった。

9 9位 木村瑞葉(2)5:15:23

スタートで少し出遅れ、先頭に着いていけず 1 周ごとに 2, 3 秒落ちてしまったがラスト上げて 9 着でゴールした。

女子 5000m 決勝

8 8着 阿部柚香(4)19:05:08

序盤は後方からペースを刻み、およそ 1km から 8 位に追いついて 9 位に浮上した。4km までついていき 8 位に浮上したが、残り 1km から離れ始めた。残り 350m 付近で 1 人に抜かれ 9 位になったが、残り 300m からスパートをかけ 8 位でのフィニッシュとなった。

1 11着 小山麻妃(3)21:22:39

200m 付近から単独走となるが、自分でペースをつくり、1000m はやや余裕を持って通過。しかし、その後ペースが落ち、うまく切り替えられないまま 11 位でゴール。

女子 400mH 決勝

3 5着 山崎萌々子(4)1:02:93 [部記録]

3 レーンからスタート。4 台目まで先頭を走るが中盤大きく失速。終盤一人にかわされ5着でフィニッシュ。

9 7着 柄澤菜々美(M2) 1:06:41

スタートからとばし軽快な5台目通過で5番手を維持。250m過ぎからピッチが落ち1歩増やして6番。徐々にストライドが狭まり8, 10台目でも1歩増すと前とは20m差。ラスト40mは8レーンと横並びで競るも0.09秒及ばず7着。



5種目で大活躍の山崎(4)

女子4×100mR 決勝

7 5着 東北大(柄澤(M2)-山崎(4) -菊池(1)-伊藤(3)) 51.36

1走 柄澤(M2)

スタートから加速に乗り、バトンゾーン時点では1チームと並んで3, 4位で通過。その後、大幅に詰まりながらバトンパスし、渡した時点では5位。

2走 山崎(4)

バトンパス時に減速するも、その後は再加速し、後続との差を広げ、1チームとの差も縮める。3走とのバトンパスは上手いき、渡した時点では4位か5位。

3走 菊池(1)

スタートから一気にトップスピードに乗り、後続との差をさらに広げる。後半は少しピッチが落ち、1チームと横並びでバトンパス。

4走 伊藤(3)

1チームと横並びでバトンを受け取り4位か5位で直線へ。力が入り後半にピッチが落ち、前のチームに差を広げられ、5位でゴール。

女子4×400mR 決勝

4 3着 東北大(柄澤(M2)-山崎(4)-原田(2)-菅田(2)) 3:58:42 【歴代2位】

1走、100m過ぎで3レーンに抜かれる。カーブで再加速してラスト50mで7レーンを抜かし、3番手に僅差でパス。

2走、前半は3番手にぴったり食らいつき、250mで抜かす。先頭を50m先に見据えながら後続を引き離してパス。

3走、200m過ぎで4番手に抜かれるものの、その差を数mにキープする粘りを見せ、アンカーへパス。

4走、前半は3番手と10m差を付けられるも、200mで3番手奪取。スパートをかけ4番手を大きく引き離してゴール。



3走原田(2)から4走菅田(2)へのバトンパス



表彰式で喜びに満ち溢れた4人

左から菅田(2)、山崎(4)、柄澤(M2)、原田(2)

女子走幅跳 決勝

6 6位 伊藤未空(3)

5m02(+3.3) [4m68(+1.1)]

1本目 5m01(+2.7)

強風だったため、ファール防止で助走スピードを落とした。うまく踏み切れたが、空中でバランスを崩してしまった。

2本目 F

1センチほどファール。踏切前で距離が近いと判断し、スピードを減速して踏み切ってしまった。

3本目 4m78(+3.4)

踏切3歩前で減速し、ブレーキをかけて踏み切ってしまったがために、上方向には浮くが距離の出ない跳躍になった。

4本目 F

空中で前方回転に負けてしまい、真下に落ちるような跳躍になってしまった。

5本目 4m68(+1.1)

踏切1歩前で間延びしてしまい、ブレーキをかけて踏み切ってしまった。そのため、スピードが減速し、力もうまく乗らなかったため失敗跳躍。

6本目 5m02(+3.3)

助走も6本の中では一番スピードが出ていて、踏切も力の乗る位置で踏み切ることが出来た。助走から着地まで最もまとまっていたが、前方回転に耐えきれぬ空中姿勢という点に課題が見つかった。

3 8位 須藤桃由(2)

4m96(+4.5) [4m84(+1.4)]

1本目 4m96(+4.5)

6本の中で一番スピードがあった。この記録でトップ8に8位で残った。

2本目 4m84(+1.4)PBタイ

公式練習や1本目の助走よりスピードが遅くなってしまう。

3本目 F

踏み切り1歩前でストライドを広げてしまい、うまく踏み切れなかった。

4本目 4m52(+2.6)

踏み切り1歩前でストライドを広げないことを意識して跳んだが、板の手前で踏み切ってしまった。

5本目 F

3, 4本目より良い跳躍ができたがわずかにファール。

6本目 4m68(+2.4)

助走スピードが遅かったうえ、踏み切りで力が入らず記録を伸ばすことができなかった

11位 村尾愛乃(2) 4m41(+4.1)

1本目 4m41(+4.1)

SB。助走スピードにのり踏切位置もよく、まずまずの跳躍。

2本目 4m39(+4.4)

記録を伸ばすため、以前から課題であったリード脚が斜めになるのを防ごうとする。意識が踏切に向かいすぎてしまい、間延びする。

3本目 4m27(+2.1)

間延びを解消するため、踏切手前で刻むことを意識する。結果として助走スピードが落ちてしまい、思うように記録が伸びなかった。

女子三段跳 決勝

8 2位 須藤桃由(2) 11m07(+0.9)

1本目 10m54(+2.5)

足が合わず板の手前で踏み切った。ホップとステップは良かったが、ジャンプで失敗した。

2本目 11m07(+0.9)

ホップの前でストライドを広げてしまい減速したが、ジャンプまで失敗せず跳ぶことができた。

3本目 10m84(+2.6)、4本目 10m74(+2.3)

2本目で昨年の北日本インカレ以来の11mを出すことができ、3本目以降はPB(11m16)の更新を狙って跳んだ。しかし、3本目も4本目も助走スピードが落ちて板の手前で踏み切ってしまう、記録が伸びなかった。

5本目 パス

助走スピードもバネもなくなってきたうえに、右足に痛みがあったためパスした。

6本目 10m94(-0.6)

マークを前に出して足は合ったが、スピードもバネもなくPBには届かなかった。

1 9位 原田萌々子(2)

10m32(+3.2) [10m20(+0.4)]

1本目 10m20(+0.4)

踏み切り板より後ろで踏み切る。着地も上手くいかなかった。

2本目 10m05(+1.7)

踏切の調整が上手くいかなかった。着地は1本目から改善できた。

3本目 10m32(+3.2)

助走を思い切り走ろうとしたがやはり直前でストライドを縮めてしまい踏み切り板より後ろで踏み切る。

大学での初試合でPB更新をすることはできたが、改善すべき点が多く見つかった試合となった。



11m越えの跳躍 須藤(2)

女子走高跳 決勝

6 1位 原田萌々子(2) 1m55

1m45 から試技を開始。1m45 を1回でクリアしたが、助走がやや詰まり気味だったため1m50の際に助走を半足長伸ばす。1m50も1回でクリア。この時点で他に1m50をクリアした選手がおらず優勝が決まる。1m55は2回目でクリア。1m60は惜しい跳躍もあったもののクリアできず記録は1m55となった。

女子砲丸投 決勝

7 4位 平谷めるも(1) 11m09 [部記録]

1投目でファールをしてしまい、二投目では砲丸が抜けて、高く投げすぎてしまい8m45で、この

ままでは8に残れなくなった。後がない3投目の直前に、4年の畠山千果さんに声をかけてもらい、気合いが入った。3投目の投げではとても良い動きができ、11m09でベストが出た。4投目と5投目は力の方向と投げる方向が合っていなかった。6投目では修正をかけられたが、動きが遅かった。

11 5位 畠山千果(4) 10m93

グライドや突き出しのスピードを意識し、記録を10m後半でまとめることができた。投げのスピードをさらにあげることや、グライドで右足をしっかりと引き付けてスタンディングの姿勢に入ること意識し、七大会に向け練習をしていきたい。

女子円盤投げ 決勝

5 4位 畠山千果(4) 31m40

雨だったが、身体を大きく使うことや足からの動きを投げにつなげることができ、PBを更新することができた。初めて試合でターンをしようと思っていたが、前半の投擲で記録を伸ばせず余裕がなかったため挑戦することができなかった。2位、3位の記録が思ったよりも低かったので悔いもあるが、今後自信をもってターンできるように練習を頑張りたい。



自己ベストの投げ 畠山(4)

女子やり投決勝

1 5位 平谷めるも(1) 33m31

全投擲、助走は5歩で行った。1投目で練習以上の投げができ、記録は26m06だった。2投目で思い切り腕を振ると槍が飛び、30mを超えた。3投目で助走の速度をあげると、33m31飛んだ。4投目では3投目と同じような動きができた。5投目

と6投目では槍に力がしっかり伝えることができず、30m超えなかった。

3 7位 畠山千果(4)29m55

少しでも得点を多く獲得したかったが、思ったよりも順位をあげられなかった。力を加える方向やタイミングなど改善点はたくさんあるので、七大会でしっかり得点を取れるように練習していきたい。

女子ハンマー投げ 決勝

3 2位 平谷めるも(1)40m66 [部記録]

1投目 F

入りの時点でロウポイントがずれ、そのまま進む方向がずれてフェールした。

2投目 40m28

3ターンで投げた。オーバーターン気味のため、最後のフィニッシュで加速できなかった。

3投目 40m66

4ターンで投げた。スイング中にチップをした。二投目と同様にオーバーターンしてしまった。

4投目 F

勢いがあったが、足のつく位置が悪く、フィニッシュ後にハンマーは左にそれてフェールした。おそらく一番飛んでいた。

5投目 38m47

入りは悪くなかったが、3ターン目で減速しハンマーが伸びなかった。

6投目 39m96

2ターン目までは良かったが、3ターン目から加速せず、フィニッシュは手を添えただけだった。



↑集合写真

◎第 83 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦

兼第 35 回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦…円山競技場(6/12(日))

第 83 回北海道大学対東北大学陸上競技定期戦兼第 35 回北海道大学対東北大学女子陸上競技定期戦、通称「北大戦」が札幌で 2 年ぶりに開催されました。

男子優勝(通算 49 勝 30 敗 1 分)、女子 2 位(通算 6 勝 21 敗)という結果でした。東北インカレの翌週の開催であり、疲労が蓄積している中でしたが、健闘しました。

以下、出場した選手の観戦記となっております。

	男子トラック	男子フィールド	男子総合
1 位	北海道大学[55 点]	東北大学[40 点]	東北大学[93 点]
2 位	東北大学[53 点]	北海道大学[37 点]	北海道大学[92 点]

	女子トラック	女子フィールド	女子総合
1 位	北海道大学[35 点]	北海道大学[11 点]	北海道大学[46 点]
2 位	東北大学[30 点]	東北大学[6 点]	東北大学[36 点]

男子 100m

1 位 齋藤晃汰(3) 11.31 (-2.6)

強い向かい風の中、タイムよりも勝ちを意識。イメージ通り、スタートで抜け出した後は、一步一步丁寧に設置することを意識。冷静なレースができた。

3 位 新山大翔(2) 11.45 (-2.6)

試合前日までの調整が上手くいかず、自己ベストからは程遠い結果となったが、しっかりと練習を積み次の機会には PB を狙いたいと思った。

6 位 川手拓郎(2) 11.58 (-2.6)

練習を積んできたスタートから前半 30m まではスムーズな加速ができたが、70m 付近から上体が左右に開きオーバーストライド気味になって失速に繋がってしまった。七大戦ではこの課題を改善して PB を狙いたい。

男子 200m

1 位 齊藤宥哉(3) 22.03 (-1.0)

機械の不具合により 2 度もスタートをやり直したため、若干疲れていた。ラストの直線でピッチを落とさないことだけを意識し 1 着でフィニッシュ。

2 位 菅野涼太(1) 23.28 (-1.0)

スタートから順調に加速し、直線には二番手で入る。ただ後半から走りが伸びず、後続に詰められたが、なんとか 2 着でゴール

5 位 藤井大陸(4) 23.78 (-1.0)

スタートから足に力が入らず途中で諦めかけたが、最後まで走りきり、5 着でゴール。

男子 400m

1 位 佐藤千仁(4) 49.39

スタートからスピードにのり、やや大きなストライドで 200m 地点まで走る。足を使いすぎ、そこからスパートがかからず、必死にスピードを維持し 1 着でゴール。

4 位 菅野涼太(1) 50.70

バックストレートで追い風に乗って走り、体力消費を最小限にした。後半はスピードを殺さず走り、ラスト 100m で追い上げにかかった。ラスト数十m まで体力が持たず北大生の前二人を抜ききれず 4 着でゴール。

5 位 西尾陸大(2) 51.73

スプリント力を活かし前半先行したいと考えたが、不調を拭えない走りで前半 300 を通過。ラスト 100 で大きく離されフィニッシュ。

男子 800m

2 位 大塚光陽(2) 1:56:18

ブレイク直後から 2 番手で展開。そのままレースを進め、550m 地点で先頭に立つも残り 100m で抜かれて 2 着でゴールした。

3 位 富田綾人(3) 2:01:91

第 2 集団の後方で走った。最後 30m で 3 位に上がった。

男子 1500m

4位 相澤啓太(3)4:11:90

林さんと宮瀬さんが4分切りを目標にしていたので、2人の後ろにはつかずに、淡々とペースを刻む予定。目標は宮城県選手権の標準である4分8秒切り。綾人が途中までペースを作ってくれて、序盤は楽に走れてはいた。が、2周目でペースが落ちたことを感じて少し焦りがでた。1000を過ぎてペースを上げ3番手に上がったが、ラスト1周の時点で3分3秒くらい。この時点で予想以上に疲れていたが、上げないとダメだと思った。200まではよかったが、ラスト100で力尽き、ジョグみたいになってしまった。情けなかった。

5位 稲川亮太(3)4:12:87

スタートから北大2人が飛び出し、そのほかは集団で1000mぐらいまで通過。ここからゴールに向けてペースが上がるが、うまく対応できず離されてしまい5着でゴール。

6位 富田綾人(3)4:29:02

800mまでは第2集団を引っ張っていたが、その後は抜かされて離されてしまった。

男子 5000m

2位 安本尚生(2)15:13:47

まず、今回の当初のレースプランは東北インカレの疲れを抜き切れていないこともあり「北大の2番手についてラストで勝ち、ポイントをとる」というものでした。ですが、レース前に北大の林さんから北大勢を3'03くらいで引っ張るということを聞いたので、ずるいことをせず自分もつかなくてはいけないなと思いました。風も強く、アップ中からあまり体が動いていない感覚だったので、スタート後も不安でしたがレース中はただ前の林さんにつくことだけに集中して走りました。自分の課題である2000~4000mの中間走も何も考えずに走れたので、かなり余裕をもってラップを落とすことなく走れました。しかし、ラスト1000mになって急激に疲れが出てきはじめ、ラスト1周で離されてしまいました。PBを出せたことは喜ばしかったですが、ずっと引いてもらっていた林さんに勝ちきれなかったことが反省です。完全に実力不足でした。七大戦までにもっと練習を積み、仙台開催の今年しっかりと勝負できるようになりたいです。OB

の方々、サポートありがとうございました、以後もよろしくお祈りします。

3位 坂本順(3)15:41:33

中6日でのレースだった。東北インカレでは背中からの痛みから来る差し込みの影響でまともに走れなかったため、背中をほぐしながらジョグメインで繋いだ。

○良かった点

・差し込みが来なかった。前はアップの時点で来てしまったが、入念なストレッチのおかげかそれもなく。

・後半ペースは落ちたがピッチはいつもより維持できた気がする。

○悪かった点

・圧倒的な実力不足。北大の選手がいいペースで引いてくれたにもかかわらず2000m過ぎで苦しくて離れてしまった。

○今後について

とりあえず東北インカレよりはマシな走りが出てきた。が、できるだけ早く春先の調子まで戻す必要がある。

ケアをしっかりやりながら練習していく。焦らない。

5位 向田祐翔(2)15:56:22

最初の1000m通過はいつも通り3'00だったが、東北インカレの疲労がとれておらず、1200mの通過から、ペースが3'15/kmまでおち、上がりきらずそのままゴール。点数獲得が出来ず、悔しい結果に終わった。

男子 110mH

2位 西里碧澄(1)16.27(-2.1)

向かい風が強く、1台目で遅れをとってしまったためうまくスピードに乗り切れなかったが、最後に1人抜かして2着でゴール。

男子 400mH

1位 岡田幹太(3)54.75

1台目で先頭に立ち、落ち着いてレースを進められた。ラストは風でしんどくなったが粘って1着でゴール。

2位 阿部竜胆(1)57.97

2台目辺りで幹太さんに抜かされるが、5台目まではPBと同じペース。5台目からは徐々に失速。最後はバテバテで2着でゴール。

男子 3000m S C

3 位 鳥山拓実(2) 10:17:61

スタート直後、北大の選手が 1 人抜けたが、1000m 通過辺りで吸収し、2 名の北大の選手について行く形で 2000m までレースを進めた。しかしそれ以降、極端に足が止まってしまい、2 名の選手に離されて単独 3 位のままゴールした。今回のレースではハードリングをスムーズにこなすことができ、手応えのあるレースになったと思う。また、正選手としても得点を稼ぐことができ少しでもチームに貢献できたと思う。

5 位 渡辺喬介(3) 10:34:48

終始集団の後方を走る。集団がバラけてからは 5 位をキープし、そのままゴール。

6 位 野地健太郎(2) 10:44:46

障害の跳び方はレース全体を通してだいぶよかったと思う。ただ、1 キロ通過から足が動かなくなり、そこからどんどん前の選手と離れてしまった。走力がまだまだついてない。

とりあえずめっちゃめっちゃ疲れました。

男子 5000m W

1 着 辻本隆文(4) 23:08.66

スタートから終始対校の部では先頭を歩き (OP 5000mW と同レース)、2 位以下の選手に周回差をつけて 1 位という結果だった。東北インカレの一週間後ということもあってかタイムは振るわなかったが、最低限 1 位を取れたので良かった。

男子 4×100m R

1 位 齊藤(3)-新山(2)

-西尾(2)-齋藤(3) 42.83

東北インカレと、個人種目の疲労がある中、大差で勝つことができたが、タイムとしては課題が残るレースであった。

1 走 齊藤(3)

持ち前のスタートと、軽やかな足捌きでコーナーを駆け抜ける。

2 走 新山(2)

大きなストライドでぐんぐん加速し、バックストレートを快走。

3 走 西尾(2)

キレのあるコーナリングで抜け出し、勝利を呼び込む。

4 走 齋藤(3)

強い向かい風の中、力強い走りで先にゴールを駆け抜けた。

男子 4×400m R

1 位 齊藤(3)-岡田(3)

-齋藤(3)-佐藤(4) 3:22:93

ホームストレートの強い向かい風に力負けし、タイムを出すことができなかったが、七大戦に向けた貴重な経験値を得ることができた。

1 走 齊藤(3)

落ち着いたスタートで徐々に加速し、200m 以降、持ち前のスプリント力を発揮。大差をつけてバトン継ぎ。

2 走 岡田(3)

高校以来のマイル。終始落ち着いた様子で、美しいフォームを魅せながら快走。

3 走 齋藤(3)

岡田同様、高校以来のマイル。前半は持ち前のリズムでスピードに乗り、ラストは垂れたものの健闘。

4 走 佐藤(4)

後輩が継いだバトンを受け取り、力強い走りで独走。最後は両手を広げ、澄み渡る青空の下で、男子対校得点の勝利を掴み取る。

男子走高跳

1 位 嶋崎雄飛(3) 1m80

OP 走幅跳で足首捻挫しました。二度と走高跳以外しません。

2 位 藤田想(2) 1m80

東北インカレには三段跳出ていたので、東北インカレ後の 1 週間の練習でなんとか合わせて本番に臨んだ形だった。

1m65 は、少し慎重な助走だったが問題なく 1 回目でクリアした。1m70 では、1 回目は助走を刻みすぎたせいで踏切が遠くなり、頂点がずれて失敗したが、2 回目は少しゆったりしたイメージで助走を行うことで、適切な位置で踏み切りクリアした。しかし踏切では荷重できた感じがなく、流れたジャンプになっていた。1m75 では、1 回目は内傾をかけすぎてバランスを崩したため踏み切れず、2 回目は再び頂点が手前にずれてバーを落としたが、3 回目は適度な内傾からタイミングの良い踏切ができ、ノータッチでバーをクリアした。1m80 では、1, 2 回目は力が入った強引な動きになってしまい失敗し

たが、3回目は、踏切の瞬間のみ力を入れる事を意識したところ、バーに触れたがギリギリでクリアした。1m85は、1回目は助走スピードを上げすぎて踏切が近くなったためバーに体ごとあたってしまい、2、3回めでは徐々に助走のリズムを安定させていったが、足先だけで跳んでいるような踏切だったので、クリアできなかった。

今回の試合では、準備期間の短さを考えるとまずまずの完成度の跳躍かできたと言えるが、まだ課題が多く、助走スピードも十分ではない状態だった。これから七大戦の出場枠争いもあるので、気合を入れて練習に取り組みたい。

3位 能澤圭輔(2)1m70

東北インカレでの曲線助走等の問題がなぜ起こったのか考えてこの試合に挑んだ。私なりに考えたのは言わずもがな風のこともあったのだが、自分がとりあえずスピードをあげれば跳べるという考えがあったからではないかと考えた。その理論自体は間違っていない。しかしそれはスピードとそれによって倍増する重さに足が耐えきれぬ場合のみである。だが私は現在進行形で怪我をしており、そんな重さに耐えられるはずはない。そんな状況にかかわらず、スピードをあげたことが原因ではないかと考えた。そのため今回は助走を遅めにし、しっかり踏み切るということを重要視した。そしてアームアクションをシングルではなく、ダブルにもどした。助走を遅めにしたことで、曲走路をしっかりと走ることができた。その結果またまともな跳躍ができといえる。しかし、リードレッグの意識、空中でなんとかしようとしていること、飛び付きにいつている、などの様々な要因により、またまたまたまた175cmをとぶことができなかった。おそらく7大戦にはでることはかなわないので、夏休み中に開催されるであろう記録会等でのSB更新のため、県春期～北大戦で明らかになった自分の欠点を改善していこうと思う。

男子棒高跳

1位 島村惟葵(1)4m10

ポールの輸送が困難だったため短い助走であったが、その分空中動作を意識して行うことができ、踏切から倒立までの流れをスムーズに進めることができた。記録自体は高くはないが収穫のある試合であった。

4位 吉田悠人(2)2m60

2m50から試技を開始した。2m50は難なくクリアできたものの、2m60の2回目の跳躍で怪我をしてしまい試技を終えた。目標としていた3m00は跳べなかったものの1点でも部に貢献することができたので嬉しく思う。また精進していきたい。

野田耀司(4)NM

練習跳躍で4m00を余裕を持ってクリアできたため3m80からスタートしましたが追い風の影響でうまく形にすることができませんでした。

男子走幅跳

1位 根本大輝(3)6m21(+1.8)

1, 2, 3回目の試技は踏切位置が合わず6m02と調子を上げきれず全体5位で決勝跳躍へ進む。4回目の試技で記録を伸ばし6m21で全体トップになる。5, 6回目に攻めた跳躍をするもファールとなりそのまま6m21, 全体トップのまま競技を終了した。

3位 山中勇利(3)6m15(+1.6)

常に風が強いコンディションで脚合わせに苦労した試合だった。しっかりと板を踏めた跳躍は3, 4, 6本目のみでそのうちの3本目が決勝記録となった。感覚としてはファールとなった4本目の跳躍が一番良く、上位混戦で優勝も狙えただけに悔しさが残る結果だった。

4位 柏木俊希(3)6m07(+3.3)

1本目 5m99 (+2.5)

5月半ばから三段跳の練習しかしておらず、少し跳ぶ感覚を忘れてしまった。着地が下手で飛距離が伸びなかった。

2本目 パス

東北インカレの一週間後で疲労も溜まっており、以前まで痛めていた左脚の再発のリスクがある為、パスをした。

3本目 6m07 (+3.3)

最低限の目標に掲げていた6mを突破できてよかったが、やはり空中動作がうまくいかなかった。

4本目 パス

2本目同様

5本目 5m98 (+3.2)

途中で体勢が崩れて、飛距離に繋がらなかった。

6本目 6m02 (+2.1)

6m20を目指して跳んだもののうまく伸びず。助走などは合っていてよかった。

男子三段跳

1位 久保田大聖(2) 13m61(+1.5)

1本目 F

ホップの角度が高くなりバランスの悪い跳躍になった。1~2センチほどファールしたが実測ではPBを超えていた。

2本目 13m11

踏切板が遠いと分かりバランスを崩した。結局30センチほど手前で踏み切った。

3本目 13m38

2本目の踏切位置を考慮して助走を20センチほど縮めたが、板に乗るか乗らないかくらいだった。ステップまでは上手くいったが、ステップ後に空中でバランスを崩してジャンプが伸びなかった。

4本目 13m20

踏切は3本目と同じくらいの位置。踏切3歩前のリズムアップが上手くいった。バランスの取れた跳躍だったが勢いがいまひとつなかった。

5本目 13m61

PB更新。4本目を考慮して助走を10センチ強縮めた。踏切はほぼピッタリでリズムアップも上手くいき、また助走スピードも1番出ていたため低く、速い跳躍が出来た。ただ、ジャンプは少し潰れた。

6本目 11m48

助走一步目でバランスを崩したのと、手拍子で無意識にピッチが速くなったことで踏切が全く合わなかった。手拍子をお願いするときはそれを考慮する必要があると感じた。

2位 柏木俊希(3) 12m48(+1.3)

1本目 F

数センチ足が出ていた。東北インカレの疲労があったものの、午前にあった走幅跳で6mを越せていたので、悪くはないと思っていた。だが、どうやら走幅跳で体力を使い果たしてしまい、まともに跳べない状態になっている事に、この時気づく。

2本目 12m48(+2.1)

1本目を終えた時点で全身が疲労感に満ちていた。最後のジャンプを耐えることが出来ず、飛距離が伸び悩む。

3本目 11m36(+1.3)

ジャンプがまともに出来ず、走り抜けてしまう。

4本目 ×

ステップの時点で耐えきれず無効試技。

5本目 12m34(+2.3)

今日は全助走で耐えきれないと悟り、中助走で挑んだ。全助走よりは流れが良かった。

6本目 12m31(+3.0)

中助走と迷ったが、最後の試技という事で全助走で挑んだ。先程の中助走より飛距離が伸び悩んだ。記録は散々だったものの、連戦に耐えられるような身体づくりが出来ていないという新たな学びを得ることができた。

5位 堀越鉄平(1) 11m89(+3.8)

追い風が強く、助走が合わなかった。風の条件に対応できる技術を身に付けたい。

男子砲丸投

1位 川内蒼馬(2) 9m30

OP100mを走った直後で、疲れきった状態で投げなければならなかった。1投目から3投目はスタンディングで投げたが、足が使えておらず、体の軸も傾いていて、弱々しい投げになった。4、5投目はグライドで投げたが、疲労のせいで足が全く動かなかった。結局6投目はグライドを諦めスタンディングで投げたが、特に改善できたことはなく、ただ疲労が少し抜けたため一番飛んだという結果になった。全体的にひどい内容だったが、砲丸投げに関しては今回がデビュー戦だったので、試合慣れするためのいい機会になった。

男子円盤投

1位 根本大輝(3) 31m44

1~3投目、記録は20m代にとどまるも全体1位で決勝投擲へ進む。6投目記録を伸ばし31m44の自己ベストで競技を終了した。

男子やり投

2位 小武右京(1) 50m26

目標を45mに設定して競技に挑んだ。

1投目から目標通りに投げる事ができたため、2投目から4投目は助走を組み込んで投げた。足の筋力不足のため助走による記録更新は見込めなかった。そのため5、6投目は1投目同様ワンクロスで投げた。その2投はどちらも速い初速で投げる事ができたが、やりの角度が良い5投目がPBに近い良記録となった。

4位 能澤圭輔(2) 44m45

圧倒的助走の下手さが目立つ大会だったと言える。また、再び風との戦いに敗北した大会でもあった。

まず助走の下手さという部分から記載する。なぜやり投げには助走が存在するのか、理由は簡単で、助走でえた水平方向のエネルギーを足でブロックすることでより自前の投擲能力にバフをかけることができるからである。しかしながら私の投げは全く違う。せっかく走ってきたのにいざ投擲の局面でほぼとまっているのだ。これでは走る意味が全くなく、リズムをとっているに過ぎない。練習ではそれなりに上手くいったのに本番ではとても無様であった。日常の練習でより試行し、安定化することが求められる。次に風についてだが、投擲競技ではある程度向かい風の方が記録が良くなる種目が存在する。その1つがやり投げである。この日は多少強すぎる風が吹くこともあったが、やり投げには絶好の向かい風であった。しかし私の記録は東北インカレ同様の無様なものであった。なぜこのようなことになったのか。仰角を上げすぎたからである。なぜ向かい風の方がやり投げの記録がいいかの理由を考える、わざわざ仰角を上げなくても槍が上昇するためである。そのため投擲者はわざわざ上方向に対するエネルギーを通常より使う必要がない。つまり仰角をあまり上げる必要がないのだ。ではそんななかで仰角を上げるとどうなるのか。やりは上方向にばかり力をつかい、前方向に飛ばないのである。私はこのことをあまり考えずにやり投げに挑んでしまった。その結果がある。私はやり投げに関する知識や練習がまだまだ足りないと感じる試合であった。

5位 澤田翔太(3) 40m15

今後の大会において、このような結果を残さないようにしたい。東北インカレで肋骨を負傷したこともあり、練習が詰めていなかったことが原因だと思う。七大戦で正選手を取れるよう頑張る。

女子 100m

2位 菊池志乃(1) 13.27(-0.1)

スタート直後は、周りの選手から大きく遅れ、そのまま30m付近まで最下位だった。しかし、30m付近からの加速は、自分のリズムに上手く乗ることができ、順位を上げ、80m付近で、2位になることが出来た。後半も失速せず、スピードを維持した。

4位 伊藤未空(3) 13.66(-0.1)

スタートは上手くいったが、中間疾走で力が入り途中おいて行かれる。ラスト20mほどのスピードが落ちず最終的に4着でフィニッシュ。

5位 柄澤菜々美(M2) 13.66(-0.1)

反応良くスタート。視線低く2番手を走るも、50m付近で3番手4人が横一線。後半で伸びず徐々に置いて行かれ、5番手。最後はトルソーしてゴールするも4着には1000分の6秒及ばず。

女子 400m

2位 柄澤菜々美(M2) 61.73

スタートして50mで5レーンに抜かれる。バックストレートは大きな走りで200mを4番手で通過。カーブでピッチアップすると2番手でホームへ。疲れながらも先頭を追い、後続を引き離してゴール。

4位 加賀谷美結(1) 64.32

カーブの入りが遅いのと、体の使い方がまだまだだと感じた。ラストは自分のできる限りの根性で挑むことができたので、大学初戦にしては次につながるよい結果だったと思う。

女子 800m

1位 菅田理乃(2) 2:27:17

スタート直後、他の選手を引き離す。疲労のせいかもしれないが、キレがなくゆっくり目なペースで先頭を走る。そのまま1着でゴール。

3位 山崎萌々子(4) 2:35:91

2レーンから出走。ブレイク後5番手で400mを通過。ラスト150mからスピードを上げ、2人かわして3着でフィニッシュ。

5位 木村瑞葉(2) 2:39:31

1500mの後のレースだったので疲れがあったのか入りから遅かった。ペースはほとんど変わらずラスト抜かされて5着でゴールした。

女子 1500m

1位 菅田理乃(2) 4:59:06

スタート後、北大の選手が前に出たため後ろにつく。スピードについていけず差が開いてしまったがラスト200m付近からスパートをかけ、ゴール付近で抜き1着でゴール。

3位 木村瑞葉(2) 5:13:24

1周目は予定より3秒ほど遅く入った。その後ペースはほとんど変わらずラスト少し上げて3着でゴールした。

5位 小山麻妃(3) 5:43:24

スタート直後は集団の後方につくも徐々に離され単独走に。その後は何とかペースを保ち、ラスト300mで1人を抜き5着でゴール。

女子 3000m

2位 阿部柚香(4) 11:05:52

スタート直後から先頭に立ち、北大の選手と2人でレースを展開した。徐々にペースが落ちていき、残り1km弱になったところで北大に抜かれ先頭から離れ始めた。残り1周で更に北大に抜かれたがラスト100mの追い上げで0.1秒程競り勝ち、2着でフィニッシュした。

5位 小山麻妃(3) 12:28:23

200m付近から単独走となり、その後は徐々にペースダウン。ラスト400mでスパートをかけ、5着でゴール。

女子 100mH

1位 山崎萌々子(4) 15.59(-0.3)

3レーンから出走。終始先頭を走る。後半はやや失速するものの、後方を引き離して1着でフィニッシュ。

3位 柄澤菜々美(M2) 16.93(-0.3)

スタートで大きく出遅れる。1台目以降加速し、ピッチの走りで先頭とは5m差、3番をキープ。9台目で先頭と1台差となりゴール。

5位 西條絵莉香(3) 21.38(-0.3)

スタートで勢いよく出られなかったことが影響し、アプローチを予定の歩数で走ることが出来なかった。この失敗が尾を引き、予定していた4歩ではなく5歩でインターバルを走ることになる。大きな動きで走ることができないまま5着でゴール。

女子 4×100mR

2位 菊池(1)-伊藤(3)

-原田(2)-須藤(2) 51.50

1走 菊池(1)

スタートから勢いよく飛び出し、徐々に北海道大学との差を広げる。そのままの勢いで2走へとスムーズにバトンパス。この時点では北大と差はほとんどなし。

2走 伊藤(3)

スタートから一気に加速に乗ったが、後半でピッチが落ち、北大に詰められる。バトンはスムーズに3走へと渡ったが、やや北大が先行。

3走 原田(2)

北大とほぼ横並びでバトンが渡り、終盤まで並走する形であった。中盤でやや北大に差を広げられ、4走へとバトンパス。

4走 須藤(2)

北大にやや先行される形でバトンを受け取る。終盤まで安定した走りで、前との差はほぼ変わらず2着でゴール。

女子 棒高跳

2位 村尾愛乃(2) 2m00

確実に記録を残すため、高さに余裕を持った1m70から始める。しかし、初試合ということもありバーを越える感覚がなかなかつかめない。何度も無効試技になりながらもなんとか記録を伸ばしていくことができ、2mを跳ぶ。

女子 走幅跳

3位 伊藤未空(3) 5m09(+2.7)

1回目 F

助走で上手くスピードに乗ったが、5cmほどファール。課題だった空中姿勢や着地までうまくまとまった跳躍だった。

2回目 5.09(+2.7)

助走は脱力して気持ちよく走れたが、踏切前で間延びしてしまい、滞空時間が短くなってしまった。

3回目 4.89

助走がゆったりとしていたため、踏切・空中姿勢までは上手くいったが、着地で後ろに足が残ってしまった。

4回目 4.89(+2.0)

100mの競技後すぐに疲労が溜まっていたこともあり、助走に力が入ってしまった。また踏切前で減速し、そのまま踏み切ってしまった。

5回目 F

助走で上手く力が抜けてスピードに乗ることが出来た。勢いを殺さずに着地までもっていくことが出来たが、3cmほどファール。

6回目 4.92(+4.0)

助走は良かったが、踏切時に後傾しすぎてしまい、ブレーキのかかった跳躍となってしまった。

4位 須藤桃由(2) 4m87(+0.9)

F 4m75(+3.5) 4m87(+0.9) 4m81(0.0) F F

1本目にファールをしてしまい焦ったが、記録を残せばトップ8に進むことが出来たので、2本目は

記録を残すことだけを考えて跳んだ。3本目でPBを3cm更新した。4～6本目は助走スピードを上げて記録を伸ばそうとするも足が合わず終わってしまった。

5位 原田萌々子(2) 4m57(+1.6)

1本目の試技で4m57の記録を出す。助走は合っていたものの、2本目は4m44、3本目は4m34、4本目

は4m40、5本目は4m39と記録が伸び悩む。6本目はファールをし、試合終了。結果、1本目の記録である4m57となった。初めての走幅跳の試合だった。課題は多いものの、足を合わせることで良かった。



↑集合写真

◎自己ベスト更新者(4/31~6/18)

- 男子 100m
 - 齋藤晃汰(3) 11.07(±0.0) 仙台大競技会(5/14)
 - 上村赳之(M1) 11.01(-0.1) 東北 IC(6/3)
 - 吉田陸人(4) 11.56(-1.5) 東北 IC(6/3)
 - 古俣諒大(6) 11.00(+0.2) 福島大競技会(6/18)
 - 八巻隼人(M2) 10.99(+0.2) 福島大競技会(6/18)
- 男子 400m
 - 川野輪拓也(2) 54:14 仙台大記録会(5/15)
 - 斉藤宥哉(3) 48.78 東北 IC(6/3)
- 男子 5000m
 - 高野陽向(2) 16:13:48 仙台大記録会(5/1)
 - 深澤昇悟(2) 15:33:21 仙台大記録会(5/15)
 - 工藤大介(4) 15:18:73 東北 IC(6/5)
 - 安本尚生(2) 15:13:47 北大戦(6/12)
 - 桑原健輔(4) 16:35:21 北大戦(6/12)
- 男子 10000m
 - 工藤大介(3) 31:57:44 東北 IC(6/3)
 - 向田祐翔(2) 31:54:52 東北 IC(6/3)
- 男子 110mH
 - 岡田幹太(3) 14.98(+1.8) 東北 IC(6/3)
 - 鈴木健大(M2) 14.97(+1.8) 東北 IC(6/3)
 - 齋藤晃汰(3) 14.70(+1.8) **[部記録]** 東北 IC(6/3)
- 男子 400mH
 - 岡田幹太(3) 54.75 北大戦(6/12)
- 男子 3000SC
 - 阿部圭宏(4) 10.07.47 東北 IC(6/4)
 - 小林由輝(2) 10.57.16 東北 IC(6/4)
- 男子 10000mW
 - 辻本隆文(4) 46:11:00 東北 IC(6/3)
- 男子走高跳
 - 藤田想(2) 1m80 北大戦(6/12)
- 男子走幅跳
 - 古俣諒大(6) 7m04(+1.5) 福島大競技会(6/18)
- 男子三段跳
 - 久保田大聖(2) 13m61(+1.5) 北大戦(6/12)
- 男子棒高跳
 - 倉部彰土(1) 2m20 北大戦(6/12)
- 男子走高跳
 - 藤田想(2) 1m80 北大戦(6/12)
- 男子砲丸投
 - 川内蒼馬(2) 9m30 北大戦(6/12)
- 男子やり投げ
 - 澤田 翔太(3) 47m35 東北 IC(6/4)
- 男子円盤投
 - 根本大輝(3) 31m44 北大戦(6/12)
- 男子十種競技
 - 根本大輝(3) 6047 点 東北 IC(6/4)
 - 金岡有途(1) 4454 点 東北 IC(6/4)
- 女子 200m
 - 山崎萌々子(4) 26.09 東北 IC(6/5)
- 女子 400m
 - 山崎萌々子(4) 59.32 東北 IC(6/3)
- 女子 1500m
 - 加藤ひより(M2) 4:57:07 東北 IC(6/3)
 - 阿部柚香(4) 5:05:95 東北 IC(6/3)
- 女子 5000m
 - 阿部柚香(4) 19:05:08 東北 IC(6/5)
- 女子 400mH
 - 山崎萌々子(4) 1:02:93 **[部記録]** 東北 IC(6/5)
 - 柄澤菜々美(M2) 1:06:41 東北 IC(6/5)
- 女子 4×400m R
 - 柄澤(M2)-山崎(4)-原田(2)-菅田(2) 3:58:42 東北 IC(6/5)
- 女子棒高跳
 - 村尾愛乃(2) 2m00 北大戦(6/12)
- 女子走幅跳
 - 須藤桃由(2) 4m87(+0.9) 北大戦(6/12)
- 女子ハンマー投
 - 平谷めるも(1) 40m66 **[部記録]** 東北 IC(6/3)
- 女子やり投げ
 - 平谷めるも(1) 33m31 東北 IC(6/5)
- 女子円盤投げ
 - 畠山千果(4) 31m70 東北 IC(6/3)
- 女子砲丸投げ
 - 平谷めるも(1) 11m09 **[部記録]** 東北 IC(6/4)

◎三秀会会計幹事交代のお知らせ

2022年6月16日付けで、岩松正記さん（平成元年卒）が、三浦得雄さん（昭和60年卒）の後任として、会計幹事に就任しましたのでお知らせします。

◎今後の予定

- ・7月7～9日 宮城県陸上競技選手権 ……仙台
- ・7月30～31日 全国七大学対抗陸上競技大会 ……仙台
- ・9月9～12日 日本学生陸上競技対抗選手権大会 ……京都
- ・9月26日 全日本大学駅伝東北地区選考会 ……北上

◎編集後記

今回はページ数が多く、読み応えのある号になっております。最後まで読んでいただきありがとうございます。東北インカレでは男子部員の活躍はもちろんのこと、例年以上に女子部員の活躍がみられ、大いに盛り上がりました。コロナウイルスによる制限は徐々に緩和されつつありますが、気を許さず、来たる仙台開催の七大戦に向けて日々邁進してまいります。変わらず東北大学陸上競技部の応援をよろしく願いいたします。

文責 OBOG 通信担当 安藤彩澄
編集補助 牧野雅紘、酒井健

東北大学陸上競技部三秀会

〒980-0815 仙台市青葉区花壇2-1

東北大学評定河原グラウンド内

hukumu_tohoku_ob2sin@yahoo.co.jp